30 円連合葉書の自然な使用例

永吉 秀夫

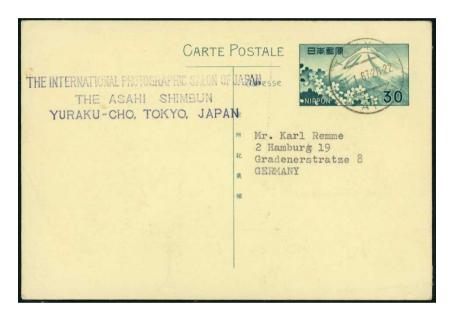
外国あての葉書料金は、今では航空便料金(70円)が全世界共通となりました。船便料金60円(国内便より安い!)も一応は定められていますが、もはや利用者はほとんどないようで、60円額面の外信葉書は販売されていません。戦後、昭和40年代あたりから、船便葉書の使用例を見つけるのは難しくなります。切手商の店頭やオークションで見かけるのは収集家が作成した収集用郵便ばかりで、通信面が真っ白というのも少なくありません。

そんな中で今回の紹介品は、昭和42年(1967年)に差し出された30円富士山葉書の「まともな使

用例」です。差出人 名として、朝日新聞 社「国際写真サロン」 のゴム印が押されて います。

通信面の写真も載せておきましょう。 今回は3369点の応募写真がありましたが、残念ながらあなたの写真は選外となりました、来年またどうぞというおとなけです。この文イプリカのようです。ミスタイプの上に重ね打ちしている部分が1箇所あります。

この種の郵便は急ぐものでないので、 まあ船便の利用価値 もありました。宛先 はドイツなので、当 時の航空葉書料金は 55円です。その半額 近い料金で送ること ができたというわけ ですね。



Dear Sirs,

January, 1967

Thank you very much for applying for the 27th International Photo Salon of Japan to be held here this year. But unfortunately your Works were not accepted by judges for display, please let us expect your application for the Salon next year again. We will send your works back in the fall.

For your interest we inform you that we received a total of 3,369 works from 34 countries, and 189 were qualified for the entry among them.

Appreciating your enthusiastic cooperation,
Sincerely yours.

All Japan Association of Photographic Societies
The Asahi Shimbun

TOKYO 1967.1.31 → ドイツ